

薬の専門知識を通して健康を支える

やくざいし
薬剤師(病院薬剤師)こんな人に
向いています

- ☐ コミュニケーションをとるのが得意
- ☐ 細かいことに気が付く
- ☐ 新しい知識を学ぶことが好き
- ☐ 体力がある
- ☐ 人が好き

薬のスペシャリストとして

医師などと協力し患者さんを支えます

薬剤師は薬の専門家です。医師が患者さんに必要な薬の種類や量を「処方せん」という書類に記し、薬剤師はそれに基づいて薬を用意します。病院薬剤師は、入院している患者さんに関わるため、医師や看護師、栄養士といった他の職種のスタッフと協力し合うことが欠かせません。薬剤師は薬に関する専門知識を持つことはもちろんですが、コミュニケーション力も大切です。患者さんに薬の説明を行う時は、わかりやすい言葉で丁寧に伝えることを心がけています。



この仕事についたきっかけ

高校生の時に初めてインフルエンザにかかり、薬を使ったところ症状が良くなり「薬ってすごい!」と興味を持ちました。また、その時に使い方などを説明してくれた薬剤師の方を見て「カッコいい! ステキだ!」と思ったことも薬剤師を目指すきっかけになりました。

入職3年目

飯沼 尚己(イヌマ ナオキ)さん



27

薬剤師(病院薬剤師)



必要な資格・スキル、役に立った経験

- 薬剤師免許
- 接客のアルバイトの経験
- 団体競技の部活動

お仕事の流れ

薬の調剤

医師の処方せんに基づき、薬を準備します。粉薬の場合は、患者さんの体重などから量を確認し、粉薬を計って1回分ずつ袋に入れます。点滴や注射に使う薬の調剤も行います。



服薬指導

用意した薬が処方通りか、患者さんの症状に合ったものかを確認し、患者さんに薬の説明を行います。会話や表情から、体調の変化はないか、困ったことはないかなどを確認することも大切です。



医師や看護師と会議

定期的に医師や看護師、栄養士などが集まり、患者さんの状況を共有するための会議を行います。治療方針を確認し、薬剤師の立場から患者さんに対する適切な薬を提案することもあります。



病棟で薬の確認・記録

薬剤部で用意した薬が、数や量、患者さんの症状に合っているかを病棟でも確認します。また、患者さんとの会話の中で気になることや困っていることを聞いたなら、スタッフ間で共有します。





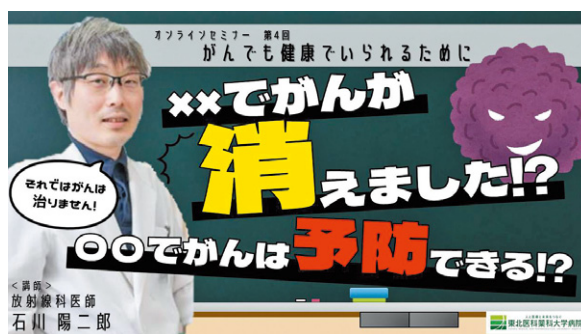
▶ 次世代の医療人を育成

最新の医療機器を導入し、高度で先進的な医療を行っている東北医科薬科大学病院。地域密着型の大学病院として、東北地方の地域医療を支えていく医療人を育成することも、大切な役割です。医学部・薬学部・看護学部などに在籍し、医療を学んでいるさまざまな学生の実習を受け入れています。例えば薬剤部では、東北医科薬科大学の教員や実習指導薬剤師が在籍し、協力しながら学生の指導や実習のコーディネートを行っています。



▶ 被災地での医療活動

地震などの自然災害が発生した場合、特別な訓練を受けた職員を現地へ派遣し、被災者を助けます。能登半島地震では、災害派遣医療チーム（DMAT）の隊員5人（医師1人、看護師2人、薬剤師1人、救急科職員1人）が能登で活動しました。



▶ 健康に関する情報を届ける

YouTubeや市民公開講座などで、地域の方々に向けて健康に関する情報を発信しています。がんやメタボリックシンドロームなどテーマはさまざま。医師が講師となり、正しい情報を届けています。

薬剤師になるためには？

薬剤師になるためには、薬剤師の国家資格を取得しなければなりません。そのためには、高校卒業後に薬学部のある大学に入学し、薬の専門知識や人体の仕組みについてしっかりと学ぶ必要があります。



職場ではこんな人も働いています

- 医師
- 理学療法士
- 臨床検査技師
- 看護師
- 作業療法士
- 栄養士



飯沼さんからの
メッセージ



東北医科薬科大学病院

仙台市宮城野区福室 1-12-1
TEL / 022-259-1221
<https://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp/>

東北医科薬科大学

仙台市青葉区小松島 4-4-1
TEL / 022-234-4181
<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

人と医療と未来をつなぐ
東北医科薬科大学病院
TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY HOSPITAL

